

繁殖期調査 ツミ・チョウゲンボウ・アオバズクの営巣を記録しよう

● ツミ

今年は各地からツミの繁殖の知らせが届いています。かつては“幻の鷹”とまでいわれていましたが、1980年ごろから関東地方の低山から平地にかけての森で、その営巣が次々に見られるようになりました。東京でも1984年に町田市で繁殖が記録されて以来、各地で観察されています。本誌では、1998年8月号に「シリーズ・東京のワシタカ類・4 団地で繁殖したツミー1997年 小平市喜平町にてー」、9月号には「同・5 石神井公園におけるツミの繁殖」という報告が掲載されています。その後も、都内各地で繁殖が知られていますが、最近では、2011年11月号に「大田区内公園でのツミの繁殖観察記」が載っています。かつてその実態がよくわからなかったツミが、なぜ東京23区の公園でまで繁殖するようになったのかは、30年以上たったいまもさっぱりわかりません。

ところで、東京をはじめ、関東地方ではいまやポピュラーな鷹のひとつとなっていますが、大阪ではまだ山地に少数生息しているだけのようです。同じ森林性のオオタカは、2001年の時点で48番いの生息が確認されていて、確実に増えているのにツミはなぜ繁殖しないのか興味あるところです。



巣立ったツミ

photo by T.Yoshimura

● チョウゲンボウ

かつては東京では数少ない冬鳥でしたが、いまでは人工建造物の穴を利用して繁殖する都市鳥の一員としてよく見かける猛禽です。場所によっては、日本では希少種となっている“コアシサシの天敵”として目の敵にまでされています。そんなチョウゲンボウがいまどこで、どんな営巣しているか現状をまとめたいと思っています。

● アオバズク

青葉のころに日本に帰ってくる夏鳥として、その鳴き声は“初夏の風物詩”ともなっていますが、東京23区でその声が聞かれるのは、皇居のなかだけではないでしょうか。その減少は、多摩地区や奥多摩地区でも心配されています。

【調査・報告要領】

1. ツミ・チョウゲンボウ・アオバズクの繁殖状況を観察し、その状況を記録し、お知らせください。現地の調査にあたっては、鳥と人（とくにカメラマン）に十分注意をしてください。詳しい調査をされ報告される方は、報告される前にその旨を電話・メール等でお知らせください。担当者との連絡を密にして、情報が漏れないように注意します。
2. 上記3種以外の猛禽類の繁殖や繁殖期の記録もお寄せください。情報管理のために、ご報告の際には事前にご連絡ください。

【発表方法】

1. いただきました記録・情報は、原則的に『ユリカモメ』誌上で発表します。
2. 発表内容については、報告者と話し合い、納得のいく形で行います。また、具体的な場所や報告者名などは伏せる可能性があります。